聖岳（冬合宿）

平成22年12月31日～平成23年1月2日
L 白土、新井、釼持（記録）

お正月、せっかくだからどこかへ行ってみたい。私には、北アルプスはいろいろな意味でだいぶ厳しいだろうけど、南アルプスは天気も安定しやすく、積雪も少ない。また、聖岳登山口である便ヶ島まで車で入れるということで、聖岳～光岳の縦走をすることに。とはいっても、やっぱりれっきとした冬山なわけで、冬山初心者の私は毎週トレーニング山行に出かけてきた。直前になってメンバーに新井さんが加わり、準備は万全。のはずが、年末年始は大荒れの天気予報により、聖岳往復に変更。おまけに風邪を引いてしまった。ちょっと心配ではあるものの、出発。

12月30日

厚木を 14 時に出発。中央道では、八ヶ岳を越えたあたりで小雪がちらつき始め、チェーン規制が敷かれていた。松川ＩＣを下りた後は、国道を経て、ひたすら林道を易老渡まで走る。私はトイレ休憩の度に、うがい薬でうがいをする。易老渡に到着後、二人は入山祝いをしていたが、体の重い私は早々にシュラフに潜る。

12月31日

５時起床。どうやら心配した風邪はほとんど治ったようだ。車で便ヶ島まで移動してから、歩き始める。沢沿いの林道を歩き、西沢渡に到着する。立派な荷物用の渡し籠が設置されている。そのすぐ先には老朽化しているが大きなな造林小屋があった。山林業が今も盛んなのだろうか。

登山道は造林小屋の裏手からジグザグの上り坂。その後尾根道になり、どんどん登る。このままではばてるなと思い、歩くペースを落とす。積雪は数センチ。後から単独一人と、３人パーティーが追いつき、私たちと合わせて３組で抜いたり、抜かれたり、同じようなペースで登っていく。

途中、一組が下山してきた。彼らは登山道上でビバークしていたようで、その人達のものと思われるトレースは途中から消えてしまった。木につけられた赤テープを頼りに登っていくが、一か所よくわからないところがあり、何度か行ったり来たりした。今回は一般ルートだけど、冬山では、登山道ではないところも歩くのだからこういうことも多いだろう。沢でもそうだけど、読図力や地形の判断力って大事だと思った。

標高 2,200mを超えると、少し雪が多くなり、膝までのラッセルになった。これまでの登りで疲れが出ていたが、頑張ってのろのろとついていく。

ようやく縦走路に出ると、南に上河内岳がよく見えていた。実際の薊畑よりちょっと左寄りに出たようだ。ここからは聖平小屋まで下り。小屋の近くで早川さんがひとりでテントを張っていた。聖岳まで行ってきたそうで、早川さんのトレースがついているとのこと。明日まで残っていてほしい。

聖平小屋の冬季小屋はログハウスみたいな木造で、中は振り分け式で２階まであり、とてもキレイだった。初めは空いていたが、最終的にテントは５張。あちこちで残りわずかとなった 2010 年最後の夜を楽しんでいるようだった。夕飯は、インスタントの年越し

そば（お餅入り）。

【縦走路から、上河内岳】

6：40　便ヶ島

15：10　縦走路（薊畑）

15：50　聖平小屋

2011年1月1日

４時起床。朝食はお雑煮と、各自が持ち寄ったおせち。お正月らしい。

5 時半、小屋を一番に出発。星がとてもきれいで風は大して無い。だんだんと夜が明け、目指す聖岳が白く浮かび上がってきた。

聖岳までは稜線であるが、手前の小聖岳までは樹林帯の中。早川さんのトレースはばっちり残っていて、ありがたい。快適にどんどん進む。東側から太陽が昇ってきた。風もなく、穏やかな新年のご来光。とても暖かい。

小聖岳から先は森林限界。ここでアイゼンを履き、目の前にどーんとそびえる聖岳を目指す。雪面は硬く、サクッサクッと小気味いい音を立てて、アイゼンがよく効く。斜度があり、斜めにジグザグに登る。山頂っぽいところは見えているけど、なかなか着かなくて、手ごわい。さすが 3,000m超の山だなって思った。

先頭を歩いていた新井さんが「あっ」と声を上げた。やった、聖の山頂だ。山頂からは赤石岳、塩見岳、中央アルプス、光岳、富士山、太平洋と 360 度の展望が広がっていた。私には、学生の頃からの憧れの山だ。なんと良い眺めだろう。二人も楽しそうだ。

【山頂から赤石岳が見える】

早出したおかげで、山頂は最後まで貸切だった。写真をたくさん撮って遊んだあと、下山開始。急斜面だから気を遣う。だんだん雲が増えてきて、樹林帯にさしかかる頃には粉雪がさらさらと舞うようになった。振り返ると、聖岳はすっぽり雲の中。さっきまでの晴天が嘘みたいだ。

聖平小屋へは 2 時間ほどで到着。まだ昼の 12 時半だ。テントに帰って、3 人で大新年会になる。昼間から食べ続け、することもなく

18 時半に寝てしまった。

5：30　聖平小屋

9：40／10：20　聖岳

12：20　聖平小屋

1月2日

3 時半起床。ゆっくり寝たおかげで、頭がすっきりしている。夜に目が覚めてしまうかなと思ったが、ぐっすり眠れた。朝食を済ませ、5 時半に聖平小屋を後にした。前日にも増して無風で全く寒くない。今日は予報どおり、天気は回復傾向のようだ。

薊畑から登山道をどんどん下ってゆく。多数の登山者が帰ったため、雪はしっかり踏み固められていた。あちこちに大小様々の動物の足あとが横切り、この山域はとても賑やかのようだ。実際、リス１匹とカモシカ１頭に出会うことが出来た。カモシカは重そうな体なのにガラガラの崖をぴょこぴょこと走って消えていった。なんとも羨ましい。

あっという間に西沢渡まで下りてきてしまった。山行中は暖かかったようで、このあたりは入山時よりも雪が減っているようだった。

入山時に気になっていた渡し籠に乗ってみると、なかなか籠＋自分が重くて動かすのが大変だった。こういうのが好きな人なら楽しいが、ここは木橋を渡るのが賢明だ。物自体は新しいので、増水時には心強いだろう。

便ヶ島に着くと、聖光小屋の方が出てきた。山岳関係者ではないが年末年始の間は、登山者が下山するのを見届けるために来ているとのこと。なぜか厚木に詳しかった。

来たときは真っ暗でわからなかったが、便ヶ島～国道までの間には日本のチロルと呼ばれる下栗の里という集落があった。山の斜面ぎりぎりのところに民家が並び、お年寄りが日向ぼっこをしていた。振り返ると聖岳が白く輝いていた。

【下栗の里から見た聖岳】

5：30　聖平小屋

9：20　便ヶ島

山行中はずっと天気に恵まれ、楽しく充実した冬合宿になった。

当初の計画では光岳まで行くことになっていたが、聖岳から光岳までの縦走路を見たとき、そのコースを実際に見てみて圧倒された。今の私では正直、無理だろう。体力をつけて、いつかは再挑戦したいと思う。

【聖岳　山頂にて】